

『サンキヤツチャーが届けてくれたもの(仮)』

第7稿

スタッフ

脚本 石丸 あゆら
脚色・監督・編集 富岡 英里子
撮影 小菅 雄貴
録音 田村 専一
音楽 MaSsugunMusic
助監督 田村 専一
制作 古川 真
振付 MINORI

企画・制作 はなゆら

制作協力 CreateRia株式会社

制作意図

ひかるから届いたカードメッセージやサンキャッチャーに込められた
思いと、サンキャッチャーによって閉め切ったカーテンがちよつとだ
け開けられるようになり、虹色の光に癒されていく心の変化を映像に
出来たらと思いました。(石丸あゆら)

登場人物・キャスト

はな・・・上野 真凜

大学4年生、看護学科に通っていたが、実習で看護の
現実を目の当たりにして、学校へ通えなくなる。

それでも趣味のダンスは続けていられたが、最近では
家族以外の人と顔を合わせられなくなってしまった。

だいち・・・板垣 貴宏

はなの父親。サラリーマン。穏やかな性格。

みずき・・・長谷川 久美子

はなの母親。スーパーのパート。はなの良き理解者。

ひかる・・・加藤 倫

はなの弟。大学2年生。文学部。はなと一緒にダンス
を続けている。はなへは、どう接したら良いかわから
ないでいる。

そら・・・鈴木 茉帆

うみの姉。はなとひかるとは幼馴染。ダンスユニット
のリーダーをしている。

うみ・・・長谷 ゆうな

そらの妹。はなとひかりとは幼馴染。明るく活発。

あゆらさん・石丸 あゆら

千葉市でひきこもり就労ピアサポーターとして活動し
ている。

○シーン1 朝 はなの部屋

朝日が差し込むことのない、薄暗い部屋。
はなが締め切られたカーテンの前に立っている。
カーテンを開けようと手を伸ばすが、少しして躊躇い、
よりきつく、カーテンを締め切ってしまう。

○シーン2 同・朝 ダイニング

暖かな家族の朝食の風景。

父・だいち は、ダイニングテーブルに座り朝食を食べている。
母・みずきは、キッチンでりんごを剥いている。
テーブルには、四人分の朝食が用意されている。

だいち 母さん、醤油取ってください。

みずき 目の前に置いてあるでしょ。

だいち あ、ほんとだ。

そこに慌ただしく弟・ひかるが入ってきて、座る。

ひかり お父さん、ボケるには早い。

だいち ン。

ひかる いただきまーす。

母が切っていたりんごを持ってきて、腰かける。

みずき いただきます。ひかる、今日は？

ひかる 授業は午前まで、その後これ（ダンスの振りを少し）。

みずき ン。

だいち はなちゃんにも、声かけて行ってあげてよ。

ひかる ……

みずき その気になったら行くわよ。お父さんは？

だいち 今日は早いから、夜は家です。

みずき ン。

だいち 大学は無理でも、これ（ダンスの振り）は行けてたのにな
あ、はなちゃん。

みずき そっとしておいて欲しい時もあるのよ。

だいち ふん（納得していないような相槌）

みずき ほれ、りんご。

だいち ン。

ひかるは黙々と、朝食を食べ続けている。

○シーン3 同・朝 玄関

玄関の目の前に、はなの部屋がある。

ひかる 行ってきまーす。

父の声 あ、ちょっとひかる、一緒に行かないの？

ひかるは、慌ただしく家を出ていく。

「なんだよー。」などと言いながらだいちが玄関にやってきて、はなの部屋のドアをノックする。

父 はなちゃん、行ってくるよ。

はなが部屋の中からトントン、と返事をする。

その姿を見守っている母。

今度は、母が部屋のドアをノックする。

母 はな、朝ごはん。いつものところ置いておくね。

はな (部屋の中から) うん。

父と母が顔を見合わせて、玄関を出ていく。

父 行ってきますーす。

母 行ってきます。

静まり返った家。

まるで誰もいないよう。

○シーン4 日替わり 昼 コミュニティセンター部屋の中

妹・ひかる、そら、うみがダンスを踊っている。

○シーン5 日替わり 朝 ベランダ

父・だいちがベランダで育てている花に水をあげている。携帯をとりだすと、写真を撮り、誰かに送っている様子。

○シーン6 日替わり 昼 ダイニング

買い物袋を下げた母・みずきが入ってくる。

みずき ただいまー

テーブルの上には、洗われたはなの朝食の食器。

その横に、はなのメモ書き「ごちそうさま、ごめんね。」

みずきは、はなの部屋の前へ行くと部屋のドアをノックする。

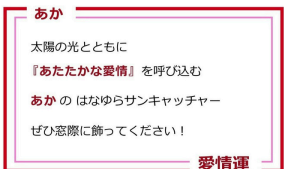
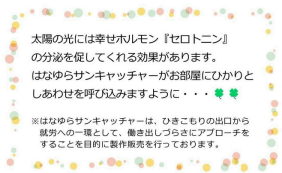
みずき はな。食器、洗ってくれてありがとう・・・充分だからね。

○シーン7 夜 はなの部屋

はなが布団に寝転がり、天井を見つめている。

携帯の待受には、だいちが育てた花の写真が設定されている。

実際にはなゆらで
使用しているものを用意



○シーン8 日替わり・昼コミュニティセンター部屋の中

ひかる・そら・うみ が休憩している。

そらはな、復帰できそう？

うみ 次のコンペのこと考えると、そろそろ間に合わないよね。

そら 大学は、まだ休学中なんだっけ？

ひかる はい、実習先で結構キツイ思いしたっぼくて、自信なくなっ
ちやったみたいで。

うみ 看護は、厳しいって聞くもんなあ。

そら 家では、話したりしてるの？

ひかる・・・夜たまに顔合わせるくらい。

うみ 今、電話してみよっか！？

電話をかけようとするうみを、制するひかる。

ひかる あ、ごめん。もうちょっとだけ、時間くれるかな？

○シーン9 同・夕コミュニティセンター廊下

ひかるが歩いていると、

キラキラと光るサンキャッチャーが目にとまる。

看板「はなゆら」ひきこもりの出口から就労へのサポート」

ひかるに気がついたあゆらさんが部屋から出てくる。

あゆらさん もし、よかったら（見ていく？）

ひかる あ、

あゆらさん 見るだけでも

ひかる じゃあ、

あゆらさんの優しい雰囲気惹かれ、部屋の中へ入るひかる。

中には、説明書きのチラシなどが貼られていたり、

サンキャッチャーを創っている人たち。

ひかるは、暫くするとひとつのサンキャッチャーを手取る。

その姿を見つめている、あゆらさん。

○シーン10 同・夕 ダイニング

テーブルの上に、はなの夕飯が置かれている。

ひかるは、ダイニングテーブルに座り手紙を書いている。

その横には、サンキャッチャーが置かれている。

○シーン11 同・夜 ダイニング

薄暗い部屋。

はなが一人、ひかるが書いた手紙を読んでいる。

はなは、手紙を読み終えると、暗闇の中でサンキャッチャーを
照らして。

シーン12 某日・朝 ダイニング・リビング

いつもと変わらない朝の風景。
はなが、手にさんきゃツチャーを握り締め入ってくる。
はなは、窓際まで行くとレースのカーテンを開け、サンキヤ
ツチャーを飾る。
太陽の光を浴びたサンキヤツチャーが虹を作り、
はなの頬をキラキラと照らす。

おしまい